

令和7年度 第2回「危機言語の保存と日琉
諸語のプロソディー」合同研究発表会
(2026/3/14-15)
発表日時：2026/3/15
場所：国立国語研究所 多目的室（2階）

岡山方言の文末表現の長母音化について—岡山 県玉野市の方言を中心に

田窪行則
国語研 名誉教授

目次

1. はじめに
2. 岡山玉野方言の文末表現の種類
3. 岡山玉野方言の文末表現の機能と語末母音の長母音化・短母音化
4. 考察

1. はじめに

- 田窪の母方言である岡山玉野の地域言語(以下岡山方言)の文末表現を長母音化・短母音化の機能に着目して談話管理理論の枠組みで(informally)記述する。

本発表は田窪 (to appear)に基づく

談話管理理論

Takubo and Kinsui (1997)、Takubo (2020)などで提出した言語表現と談話における知識管理の関係から考察する。

話し手が自分自身あるいは聞き手とのインタラクションでどのように自分の情報状態をアップデートさせていくかをモデル化したものである。

2. 文末表現の種類

ここでいう文末表現とは動詞活用形、助動詞、およびそれに付加される終助詞である。

動詞活用形

本務としてそれだけで文を終止する機能をもつもの
命令形、基本形、意向形

助動詞

動詞基本形に接続し、文のモダリティを表す。原則として、動詞、形容詞、名詞＋繫辞、としての活用をする。
金田一（1953）が「不変化助動詞」とよぶ共通語mai、darooのように、活用をせず、終助詞との区別が不分明なものもある

終助詞

動詞の文終止形式に付く小辞であり、文の発話の力を表す。

2.1 動詞活用形

子音語幹
行く
ik-u

母音語幹
食べる
tabe-ru

- 命令形

ik-**e]e**

ta]be-**e**

- 意向形

ik-oo

tabe-**joo**

- 第二意向形

ik-**a]a**

tabe]r-**aa**

- nee 命令形

ik-i-**ne]e**

tabe-**ne]e**

2.2 助動詞

述語基本形に接続する

- 推量 djaroo~djaro
 ta形 djattaroo~djattaro

- 否定意向・否定推量 maa~ma (未然形に続く場合は、動詞接尾辞とみなせる)
- 証拠推論 mitee-dja~mittee-na mitee-dja~mitee-djaa *mitee-naa
 ta形 mitee-djatta~miteena-katta

- 伝聞 soodja~soona soodja~soodjaa *soonaa
 ta形 soo-djatta~soona-katta

2.3 終助詞

- 質問 ka～kaa おめー いくんか (一)
- (自己)確認 na～naa これじゃ な (一)
- (自己)確認 noo これじゃ のー
- 情報提供 de～dee もー いくで (一)
- 情報提供 jo～joo もー いくよ (一)
- 情報提供 ga～gaa これじゃ が (一)
- 質問 (N) nara どけー いくんなら

3 文末表現の機能と語末母音の長母音化・短母音化

- 岡山方言では文末形式は多くが語末の母音を長母音化したり、長母音の語末を短母音化することで異なる用法を発生させることがある。
- この長短の変異は明らかな機能の分化がある場合と自由変異の場合がある。
- この長短の機能はそれぞれの文末表現の語用論的・談話的機能と関連している。

本発表では、語末母音の長短の機能に着目し、これらの文末表現について適宜共通語との差を見ながら岡山玉野方言の体系的な記述をこころみる。

3.1 命令形と長音化

岡山方言の命令形

子音語幹動詞：語幹にeを加え、それを長母音化する。(語幹にeeを付ける)

基本形 ik-u (行く) ik-e]-e 書く ka]k-e-e

母音語幹動詞：語幹母音を長母音化する。(語幹にeを付ける)

基本形 tabe-ru (食べる) ta]be-e 基本形 ki-ru (着る) ki-]i

3.1.1 母音語幹動詞の命令形

岡山方言の母音語幹動詞命令形の長母音は古い時代の中央語の命令形から生じたと考えられる。

- ik-e tabe-jo

tabe-jo> tabej> tabee 現代の共通語では*tabei*のような*ei*の形は通常現れないが、謡曲などでは見受けられる。[『日本語歴史コーパス』\(バージョン2024.3, 中納言バージョン2.7.2\)](#)

不規則動詞 「来る」と「する」の命令形

- ko-jo>koj>kee
- se-jo>sej>see

3.1.2 子音語幹動詞の命令形

中古の時代に子音語幹の動詞の命令形に**jo**が付いている例がある。どれほど広範囲に行われていたかは不明。

kak-e-jo>kakej>kakee

joが付いた形式が母音語幹からの類推を促進した可能性もある。

kak-e>kajkee <<tabe-eからの類推

玉野方言ではこの命令形は主として男性が使い、女性は動詞連用形に**nee**を付けた形式を使う。

3.1.3 命令形とnee

岡山玉野方言ではこの命令形は主として男性が使い、女性は使わない。女性は動詞連用形にne]eを付けた形式を使う(p.11)。

- i[k-i-ne]e (行きねー)
- ta[be]-nee (食べねー)
- ki-[ne]e (来ねー)
- si-[ne]e (しねー cf 「死ぬ」のneeを付けた形は「死にねー」)

ne]eは共通語の動詞連用形-nasaiを付けた形に対応するがおそらくはnasaiが変化したものではなく、連用形に終助詞連続na-joが変化したものと考えられる。

(V-連用形)-na-jo>naj>nee

nasaiのあとにはneやjoを付けられるが、ne]eの後には終助詞をつけることができない。

3.2 第二意向形と長音化

玉野方言には共通語と同じ形式を持つ意向形のほかに**第二意向形**とでも言える形式がある。

ik-u i[ka]a

tabe-ru ta[be]raa

母音語幹の動詞がtabe+aa>tabjaaでなくta[be]raaになることから、この形式は、語幹にaaを付けたものではなく、動詞の基本形にaaが付いたものと見ることができる。

iku+aa>ik-u-aa 母音脱落 >i[ka]a

tabe-ru+aa>tabe-ru-aa 母音脱落 >ta[be]raa

3.2.1 第二意向形

この形式は、基本形が通常生起することができる南のCレベル接続助詞kedoやgaが後接することができない(南1974,1993)。

*ika]a kedo (行く *第二意向形 kedo)

この点ではこの形式は命令形や意向形と似た同じ分布を示すと言える。

itta ke]do~itta] kedo (行く ta形 kedo)

*ikee kedo (行く *命令形 kedo)

*ikoo kedo (行く *意向形 kedo)

*ikaa kedo (行く *第二意向形 kedo)

3.2.2 意向形と命令形・第二意向形との違い

- 意向形kaや,na、jo、jaなどの終助詞が接続することが可能である。

ikoo {ka、na、ja、de}

tabejoo {ka、na、ja、de}

mijo]o {ka、na、ja、de}

kojoo {ka、na、ja、de}

sijoo {ka、na、ja、de}

- 命令形・第二意向形にはこれらの終助詞は付くことができない。

*ikaa {ka、na、ja、de}

*taberaa {ka、na、ja、de}

*miraa {ka、na、ja、de}

*kuraa {ka、na、ja、de}

*suraa {ka、na、ja、de}

*ikee {ka、ja、de}

*tabee {ka、ja、de}

*mii {ka、ja、de}

*kee {ka、ja、de}

*see {ka、ja、de}

命令はnaは可能 (cf. 共通語で 命令+yonaが可能であることを参照)

3.2.3 第二意向形と長音化

命令形が終助詞が接続した形であると考えられることから、第二意向形も **aa** は終助詞と同じ機能と分布を持つと見ることができる。

- 「聞き手に話し手が自分の行動に関する意向・決意を示す」というこの形式の意味から **jo** あるいは **wa** に相当する終助詞が融合した形式と見られる。
- 意味的・音韻的考慮から、この **aa** はおそらく、終助詞の **wa** から来ていると見られる。

iku-wa>ika]a

tabe-ru-wa>tabe]raa

kuru-wa>ku]raa

3.3. 意向形、否定意向形の機能と短音化

岡山(玉野) 方言の意向形(j)ooは共通語と同じく語幹に接続する。

ik-u ik-o]o

tabe-ru ta[be-jo]o

これに対し、否定意向形 maa は、基本形に接続する場合と未然形に接続する場合がある。

ik-u i[ku-ma]a i[k-ama]a

ta[be]-ru ta[beru-ma]a ta[be-ma]a

3.3.1 意向形の機能

- 動作動詞（動態動詞(有意志))の意向形は動作主の意向、意志の存在、非存在を表すのではなく、話者の意向の表明を表示する。主文平叙文では聞き手が動作の主体にはならない。

wa[sjaa mo]o i[koo.

#o[mee ga i[koo. (cf. 共通語 「君も行こう。」)

- 質問形は、話者が主体なら提案、聞き手が主体なら命令、話者+聞き手が主体なら提案か勧誘になる。

bo]ku ga i[k-oo] ka 提案

o[mee ga] i[k-oo] ka 命令

ko[re ni s-joo] ka 提案

is[sjo ni] i[koo] ka 勧誘

3.3.1 意向形の機能

- 非状態無意志動詞の意向形が(特に質問の場合) 推量の結論を表す場合がある。この場合 **djaroo** を使ってもよい。

a[sita]a a]me ga hu[ro]o (明日は雨が降るだろう)

a[sita]a a]me ga hu]ru dja[ro]o (明日は雨が降るだろう)

- 状態動詞の意向形は意向を表すことはできず、推量の結論を表す(以下推量解釈)。Djaroo を使ってもよい。

ka]sa nara ko[ko] ni aro]o ga (傘ならここにあるじゃないか。)

sa[Nnen] mo beN[kjoo sita]ra wa[karo]o (三年も勉強したら分かるだろう。)

3.3.2 意向形の短母音化

- 意向形は意志と推量の解釈が可能であるが、短母音化すると意志の解釈しかできない。

wa[sjaa mo]o i[ko].

- 基本的に質問形も許される。

bo]ku ga i[k-o] ka 提案

o[mee ga] i[k-o] ka 命令

ko[re ni s-jo] ka 提案

is[sjo ni] i[ko] ka 勧誘

3.3.2 意向形の短母音化

意向形(j)oo語末母音を短音化すると推量解釈はできなくなる。

- 岡山玉野方言では状態動詞の意向形は推量解釈に限られる。

so[ko] ni a[ro]o ga (そこにあるだろう)
o[mee ni]mo wa[karo]o ga (お前にもわかるだろう)
o[mee ni]mo wa[karo]o no]o (お前にもわかるだろうね)

- 推論解釈の(j)ooの語末母音は短母音化できず、とくに終助詞を後続させると非文となる。

*so[ko] ni a[ro] ga (そこにあるだろう)
*o[mee ni]mo wa[karo] ga (お前にもわかるだろうよ)
*o[mee ni]mo wa[karo] noo (お前にもわかるだろうね)

3.4 否定意向形の機能

否定意向形*maa*は特に無意志動態動詞、状態動詞でなくとも推量解釈が可能である。

- *a[sita]a a]mjaa hu[r-u ma]a* (明日は雨が降らないだろう)
- 共通語では英語の(I)will notに対応する否定意向形は活用形では表されず。*ik-anai-de okoo*のような複合的な形式になる。岡山方言でもそのような複合形式*ik-antokool*は可能であるが、*ikumaa*、*ikamaa*のように否定意向形も存在し使われる。
- *maa*は基本形に接続する助動詞としての形式と否定表現と同じように未然形に接続する形式が存在する。前者は助動詞、後者は動詞の活用形の一つとみなすことができる。

i[k-u ma]a (行かないことにしよう、行かないだろう)

ta[be-ru ma]a (食べないことにしよう、食べないだろう)

i[k-ama]a (行かないことにしよう、行かないだろう)

ta[be-ma]a (食べないことにしよう、食べないだろう)

3.4 否定意向形の機能

- この未然形+*maa*、基本形+*maa*の二種の形式は同じように使え、どちらも否定意向および否定推量に使える。

wa[sjaa mo]o {i[k-ama]a/i[ku-ma]a} (私はもう行かないよ)

wa[sjaa a[sita]a {i[k-ama]a/ i[k-u-ma]a} o[mo]otoruN [dja]a (私は明日は行くまいとおもってる)

soko] njaa [mo]o dare] mo o[r-ama]a (そこにはもう誰もいないだろう)

a]mjaa hu[r-ama]a (雨は降らないだろうよ)

a]mjaa hu[ru-ma]a (雨は降らないだろうね)

- 否定意向形*maal*には終助詞を付けることができる。

soko] njaa [mo]o dare] mo o[r-ama]a ga (そこにはもう誰もいないだろう)

a]mjaa hu[r-ama]a ga (雨は降らないだろうよ)

a]mjaa hu[ru-ma]a noo (雨は降らないだろうね)

3.5 否定意向形 *maa*の短母音化

- *maa*の短母音化した*ma*は、否定意向のみ可能で、否定推量解釈はできない。

wa[sjaa mo]o {i[k-ama, i[ku ma} (私はもう行かないよ/*行かないだろう)

*so[ko] njaa mo]o da[re] mo {o[r-ama, oru ma} (そこにはもう誰もいないだろう)

*a]mjaa {hu[r-ama, hu[ru ma (雨は降らないだろうよ)

*a]mjaa hu[ru ma (雨は降らないだろうね)

- *ma*は思考引用節にも入りやすく、直接引用解釈になる。

??wa[sjaa Asita]a {i[k-ama/ i[k-u-ma} o[mo]otoruN [dja]a
(私は明日は行くまいとおもってる)

3.6 確認の下降上昇イントネーション

- 語末長母音を持つ助動詞で語末の長母音を下降上昇イントネーションで発音することで共有知識の前提を確認をする機能が観察される。つまり、特定の共有知識を確認して、次に主張を述べる根拠にする機能である。

Ko[no me]e asoko]N itta] djaro]o ↘↗

この前あそこにいったらう。

mo]o ko[no] goraa ko[me] jakoo ta[bema]a ↘↗

もうこのごろは米なんかたべないだらう。

3.7 終助詞gaの機能

終助詞gaは語彙的には短母音であるとみなせ、話し手がはじめて知った情報を述べる場合、聞き手に対して新規情報を示す場合、あるいは、聞き手が忘れていると想定される情報を示す場合の標識としてつく。

a asita]a a]medja ga 明日は雨だ
{知らんかもしれんけど} ka]sa djattara ko[ko] ni a]ru ga
傘だったらここにあるよ。
{忘れとるかもしれんけど} wa[ta]sja mo]o so[tsugjoo sito]ru ga
私はもう卒業してるよ。
nani ju[uto]ruN aN]ta dji[tensja tsu]ugaku djatta ga
なに言っているの、あんた自転車通学だったじゃないの

3.8 終助詞gaの長母音化：共有知識の確認

- 情報が聞き手も知っているものであるかを確認し、次に述べることの前提とするばあい、確認のために下降上昇イントネーションになる。gaはこの場合、下降上昇イントネーションを担うために1モーラ伸び、長音化される。

{あんたも しつとるじゃろーけど、見たらわかるじゃろーけど}

ka]sa djattara ko[ko] ni [a]ru[ga]a^{↗↘}

かさだったら ここに あるじゃないの

{あんたも おぼえとるじゃろーけど}

A[N]tamo dji[teNsja tsu]ugaku djatta [ga]a^{↗↘}

あんた 自転車通学だったじゃないの (それで足が強くなったんじゃないの)

- 独り言でも聞き手に向かってでも使え、どちらの場合もそれが付く命題内容を心的計算により確認する操作をしたことを表す。聞き手に向かって使う場合は情報の確認となる。

3.9 終助詞noo/naaの機能

no]o、**na]a**はもともと語末長母音を持ち、下降イントネーションで発音される。心的確認作業中であることの表示である。従って、聞き手に対して発せられる場合は、確認・同意要求を表示できる。

a[sita]a a]medja [no]o 明日はだめだよね

a[sita]a a]medja [na]a

kjo]owa sa[mi]ji [no]o 今日は寒いよね

kjo]owa sa[mi]ji [na]a

e[e]tsu [ku]ru ka no]o あいつくるかね

e[e]tsu [ku]ru ka na]a

a[rja]a itsu [dja]tta ka no]o あれは いつだったかね

a[rja]a itsu [dja]tta ka na]a

3. 10 終助詞naa/nooの短母音化：結論の提示

どちらも長母音を短く発音することは可能で、その場合、心的確認作業が終わり、結論を述べる際に用いられる。聞き手に対して述べるより、自分がそう結論づけたことを述べたものである。

a[sita]a [ki]tto [a]medja **no**
a[sita]a do]omo amedja **na**
kjo]owa sa[mi]ji **no**
kjo]owa sa[mi]ji **na**

明日はきっと雨だ。
明日はどうも雨だな。
今日は寒いね
今日は寒いね

従って、聞き手に対して同意を求めるような確認としては普通用いられない。

#ta[nakasa]N asita]a a]medja **no**.
#ta[nakasa]N asita]a a]medja **na**.
#e]etsu [ku]ru ka **no**
#e]etsu [ku]ru ka **na**

田中さん、明日は雨だね
あいつ来るかね

3.11 終助詞の母音長短の自由交替: 長短で機能の差がない場合

de 語末母音の長短に大きな機能差がない。

deは近くにいる相手に対して、deeは遠くにいるか見えない相手に対して使うことが多い。情報管理上の大きな差はない。

(隣にいる相手に) i[ku] de 行くよ

(目前にいない相手に) i[ku] dee 行くよー

wa 男女ともに用いる。先行する文が表す内容に結論として達したことをマークするためにつけられる。動詞基本形に付く場合は融合して、第二意向形になるが、否定形や形容詞、コピュラにはwaがそのまま現れる。

de[ere]e koe]e wa (とても怖いよ)

ki[re]e dja wa (きれいだよ)

ko[ttino] [ho]o ga [e]e wa (こっちの方がいいよ)

waも長音化される。両者に情報管理上の大きな差はない。長音化した場合自分の結論や感想に到達するまですこし逡巡があったり、時間がかかったことを示すときに用いやすい。

jap[pa]ri ko[e]e wa]a (とても怖いよ)

jap[pa]ri kir[e]e dja wa]a (きれいだよ)

jappa]ri ko[ttino] ho]o ga ee wa]a (こっちの方がいいよ)

4. まとめと考察

4. 1 まとめ

本稿では日本語岡山玉野方言の主文に現れる文末表現を語末の母音の長短の交替という観点から記述した。

- (1) 語末が長母音となる動詞活用形のうち終助詞との融合と考えられるものを取り上げ、その根拠を示した。
 - 命令形、*neel*による命令： *jo*の付加
 - 第二意向形： *wa*の付加

- (2) 語末が長母音となる動詞活用形で短母音化する意向形(*joo*)・否定意向形*maa*を取り上げ、その機能を示した。
 - 意向形(*joo*)・否定意向形*maa*は話し手の推量と意向の意味解釈が可能である。
 - 意向形(*joo*)・否定意向形*maa*は語末が短母音化すると意向の解釈のみ可能で、推量の解釈はできない。
 - 推量は終助詞がつき、*kedo*などの従属節内に入ることができる。これにたいし、意向は真偽質問もできず、終助詞がつかず、*kedo*などの従属節内には入れない。

- (3) 終助詞のうち短母音が長母音化するもの、長母音が短母音化するものを取り上げ、その機能の違いを見た。

4.2 考察 母音の長短の変化による機能の変化

- 母音の長短の変化が情報管理モニター機能の差として反映される。
- 田窪(1992)は共通語では**jo**の付加により、聞き手に対する命令という行為の直接性が緩められるとしている。岡山玉野方言の命令形は短母音化することも可能でその場合はより直接的な命令になる。
- *nee*による命令も**jo**を含んでいると解釈することができる。その場合、命令行為の直接性が緩められる。*nee*は短母音化することは不可能で、それはもともとそれが持つ文体が命令行為の直接性の強調を許容しないからだと思われる。命令行為を直接的に指示したければ、命令形を使えばよい。

4.2 考察 長短と心理的処理や心理的距離の長短と関連するか

- 母音の長短はアイコンニックな性質を持つ

長母音化：単なる情報の提示(短) > 聞き手に対する確認(長)

短母音化：話し手の推論、聞き手に対する確認(長)>

話し手の意向、否定意向の表出、単なる結論の提示(短)

長短で大きな処理上の差がない場合：

deで～deeのような物理的・物理的距離の違い

wa～waa: 気持ちの差

- 対象に対する命名ではないため記号の恣意性の原理に従わない。

話し手の知識処理や聞き手に対するコミュニケーション処理、およびそのモニターにかかわる標識

記号の恣意性の原理に従わない。心理的処理や心理的距離の長短が母音の長短がなんらのiconicityを反映しているとみることが可能である。cf Clark and Fox (2002)

参照文献

- 金田一春彦(1953)「不変化助動詞の本質(上、下)」(上)国語国文22-2、(下)22-3
『日本の言語学3』大修館書店 207-249, 1978
- 益岡隆志・田窪行則(2024)『基礎日本語文法』くろしお出版
- Herbert H. Clark and Jean E. Fox Tree (2002) Using *uh* and *um* in spontaneous speaking, *Cognition*, Volume 84, Issue 1, 73-111
- Takubo, Yukinori 2020. 9 Conditionals in Japanese. *Handbook of Japanese Semantics and Pragmatics*, edited by Jacobsen, Wesley M. and Yukinori Takubo, Berlin, Boston: De Gruyter Mouton, 2020, 451-494. <https://doi.org/10.1515/9781614512073-009>
- 田窪行則(1987)「統語構造と文脈情報」『日本語学 6-5』37-48, 明治書院
- 田窪行則(1992)「談話管理の標識」『文化言語学』96-106, 三省堂
- 田窪行則 (to appear) 「오카야마 방언의 문말 표현과 장모음화 기능에 대하여(岡山方言の文末表現の長母音化機能について)」『한국어와 일본어의 방언과 언어 기술』 제2장 (韓国語と日本語の方言と言語記述 第二章) .
한국알타이학회출판부 (韓国アルタイ学会出版部)
- 田窪行則(1995) 「音声言語の言語学的モデルをめざして一音声対話管理標識を中心に」『情報処理』 vol.36 No.11, 1020-1026, 情報処理学会
- Takubo, Yukinori and Satoshi Kinsui. 1997. Discourse Management in terms of Mental Spaces. *Journal of Pragmatics*, 28.6, 741-758.
- Talbot, Alan. 1979. *Japanese as she is spoken in Okayama*. Okayama: Kuwayama Tetsuro
- 南不二男(1974)『現代日本語の構造』大修館書店
- 南不二男(1993)『現代日本語文法の輪郭』大修館書店
- 小田勝(2015)『古典文法総覧』和泉書院